

第7章 国際貢献・社会貢献

7-1 チャレンジセンター

達成目標

チャレンジセンターの活動を通し、地域社会との連携活動を展開する。連携活動件数を増やす。

目標

各キャンパスで、多様なカテゴリーのプロジェクトを一定数以上維持し、社会貢献活動を通じて、学生が社会で生き抜く力を向上させる。

現状説明

チャレンジプロジェクトとユニークプロジェクトを募集し、その活動を支援する。学生が積極的にプロジェクトを企画し、また活動に参加できるよう、募集説明会等を開催することで目標を達成する。

目標達成度の評価方法としては、30件以上のチャレンジプロジェクトとユニークプロジェクトの数を維持することを目標達成の目安とする。

2013年度は、チャレンジプロジェクト19件、ユニークプロジェクト23件が立ち上がり、社会と連携した多様な活動が展開され、その成果は、中間・最終報告会で発表されるとともに、活動の詳細は随時HPに掲載され、『2013年度活動報告書』にも収録された。

さらに、活動を活発にするために、センター推進室のプロジェクト活動担当者を中心に募集方法、募集説明会、募集パンフレット等の改善案が提案され、推進室で検討した。プロジェクト活動に関する様々な事項は、チャレンジセンター実行委員会、運営委員会で承認、決定される。決定事項はセンターミーティングで全教職員に周知される。また、2014年度のプロジェクト募集に向けて説明会を開催し、HP、ポスター等で広報を行った。

プロジェクト活動担当教職員を中心に、センター全教職員が何らかの形で取り組みに参加している。

点検・評価

<行動計画内容の実現度> S

2013年度は、計42件のプロジェクトが各キャンパスで活動を展開し、参加した学生（約1700名）は、社会とのつながりの中で様々な経験を積むことができた。また、2014年度のプロジェクト募集活動も順調に行われたことから、実現度は「S」と自己評価できる。

<成果と認められる事項>

プロジェクトの数が目標数30件を大幅に超過し、2011年度は36件、2012年度は43件、2013年度は42件となった。多くのプロジェクトが、セミナー、イベント、地域貢献、ボランティア等多種多様な活動を展開し、湘南校舎と各校舎の近隣住民をはじめ多数の方々に感動と元気を与えることができた。

＜改善すべき事項＞

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策

＜長所の維持・伸長方法＞

プロジェクト件数の維持とより質の高い活動が展開できるよう、センター推進室のプロジェクト活動担当者を中心に教職協働でコーディネーター研修、リーダー研修の充実を図る。トコラボ推進室と連携を図り、地域住民との関わりを強めプロジェクト活動を活性化していく。また、プロジェクト活動の募集に関わる事項を常に点検し、改訂していく。

＜改善方策＞

特になし。

7-2 国際教育センター

達成目標（1）

研究者及び学生の国際貢献活動を活性化させるために、単に交換留学にとどまらない国際交流活動の件数を増やす。

目 標

東海大学海外オフィス・協定大学との交流を活発にし、共同で「日本語教育・日本文化」に関連する講座を開いたり、教員のブラッシュアップ講座を開いたりして、その地域の日本語教育の質の向上のために協力する。

現状説明

2014年からの計画実施のための現地のニーズ調査などを実施する。

点検・評価**<行動計画内容の実現度>**

2013年度は漢陽大学で初めての特定プログラム日本語教育学の海外実習が行なわれた。参加学生は漢陽大学の日本語の授業に参加してTAをつとめるなど活発に交流をおこなう。また、引率教員が漢陽大学日本語文化学科主催の講演会の講師を務め、「月の歌にみる日本人の美意識」というテーマで話をした。それらの活動をとおして、協定大学の学生ならびに教員間の親睦が図られた。2013年11月2日～3日、本学ヨーロッパ学術センターで行われた「日本語教育ワークショップ」に講師を派遣し、北欧3カ国の大学・高等学校で日本語教育に携わる教師達に対してワークショップを行った。参加者からの評価も高く、北欧の国々の日本語教育に貢献する良い機会となった。

<成果と認められる事項>

2機関で交流活動がおこなわれたことが成果といえる。

<改善すべき事項>

他の地域での活動をさらに活発にしていく必要がある。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

漢陽大学では来年度からも引き続き日本人学生が参加する実習が予定されているので、その機会を利用してさらに親睦を深める。

<改善方策>

来年度はさらに多様な機関との交流の機会を計画したい。

達成目標（2）

地域社会との連携活動を展開する。連携活動件数を増やす。

目 標

大学近隣の外国人子弟の教育支援、異文化理解教育などで貢献する。同時にその活動を通して、学生の異文化理解能力の向上を図る。

現状説明

地域社会が抱える国際的な課題や、どんな協力が求められているかを探るための調査を行う。別科日本語研修課程が中心となって実施し、国際教育センター教授会が実施点検する。

2013年度秋学期に秦野市・伊勢原市・大磯町の8つの小学校に別科日本語研修課程の留学生20名ずつを派遣し、各クラスで異文化理解講座を実施した。

点検・評価**<行動計画内容の実現度> S**

当初の計画では初年度は調査の予定であったが、実現できそうなことからやってみるという方向で試行してみた。調査の後にすることを先取りしたので実現度はSといえる。

<成果と認められる事項>

秦野市は秦野市教育委員会の協力を得て5校で実施し、参加した留学生ならびに小学生児童はそこでの活動に関する感想文を交換し合った。その内容から双方が「異文化体験」をすることができ、満足していることがわかる。また神奈川県との協力で伊勢原市・大磯町での同様の活動を実施することができたので、今後の連携の可能性を広げたといえる。

<改善すべき事項>

当初日本語研修課程の留学生全員を派遣する予定でいたが、派遣できないクラスも出たので、来年度は全クラスの派遣をめざす。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

秦野市教育委員会と2013年度末に話し合いを持ち、次回は春学期から実施することで、相互理解をさらに深めていく。

<改善方策>

教育委員会との連絡を密にして、事後活動などにも力を入れることで、成果がさらに留学生・児童双方で確認できるようにする。

7-3 課程資格教育センター

達成目標

地域社会との連携活動を展開する。連携活動件数を増やす。

目 標

以下の計画は社会貢献の計画ではあるが、2010年度までに掲げたようなチャレンジセンターとの直接の連携関係は生じていないため2011年度より教育学・教職研究室の独自目標となっている。ただし、以下に示す本目標の行動計画は、連携先の要望の内容、また連携可能な教員、学生の存在に依存しているため、あらかじめ数値目標を設定できるようなものではないと考えた。そのため、実現度の評価は当該年度の連携活動の多様性と規模に関して前年度を一応の基準とした比較による評価を行うようにしている。

行動計画内容（a）：近隣自治体の教育委員会、あるいは小学校、中学校、高等学校等から各種の学習ボランティア派遣や、生徒指導や学校運営に関する研修会参加等の要望が増加している。教育学研究室では、要請があった場合、積極的に協力する。

行動計画内容（b）：県市区町村の教育委員会等から依頼があった場合、各種委員会委員を引き受けてきた。今後も、要請があった場合は積極的に引き受けて、活動する。

現状説明

行動計画内容（a） 具体的取り組み 教育学・教職研究室担当。

・2013年度に東海大学は秦野市との間に小中学校教科学習支援員派遣事業を提携し、教職課程の大学生の派遣を行うことになった。それに伴い、2013年度春セメに47名、秋セメに53名が秦野市内の各小中学校に派遣されている。また教育学、教職研究室の仲介のもとに平塚市適応指導教室に32名、綾瀬市小学生土曜講座に5名、神奈川県立秦野首屋高校に3名など県内の各市教育委員会が企画する学習ボランティアに学生を派遣している。教育学・教職研究室ではこれらのボランティア活動に対し、2月3日に「教育にかかわるボランティア報告会」を開催した。

・2013年度は神奈川県内の各市から発達障害、不登校、いじめ、学校経営に関する研修会講師の依頼が11件あり、これらを受諾した。

行動計画内容（b） 具体的取り組み 教育学・教職研究室担当。

2013年度は神奈川県教育委員会、平塚市教育委員会からの委員委嘱が計5件あり受諾した。また、2013年度は9地域の教育委員会から教員採用選考試験大学推薦者の募集があった。それに対し募集科目に応じた教職課程設置学科・課程から学生を推薦してもらい、教育学、教職研究室を中心として面接による特別選考を行った。

点検・評価**<行動計画内容（a）の実現度> S**

行動計画に従い要請に対応した結果、学習ボランティアの学生数が増加したことと、報告会（参加パネリスト5名、参加学生数26名）を開催して活発な意見交換を行い、報告会開催後のアンケート調査（ボランティア活動で考えたこと、困ったことなどに関する自由

記述調査の内容分析)で学生の意識が高まったことが示されたことから「S」評価とした。

<行動計画内容（b）の実現度> B

行動計画に従い、要請に対し積極的に対応した。今年度は生涯教育を担当する教員1名が退職しているものの12年度の26件に対し委嘱受諾件数が多少減少している。また特別選考については7名（12年度は3名）を推薦し、3名（12年度は3名全員）が最終合格となったことを合わせて考えて「B」評価とした。

<成果と認められる事項>

(a)、(b)ともに、依頼があった件に対しては依頼内容を吟味し、専門分野に応じて多くの依頼に応えている。

<改善すべき事項>

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

今後、依頼内容に最適の講演者をもって対応してゆく。

<改善方策>

行動計画(a)(b)ともに、県および近隣市町村の教育委員会並びに諸学校と今後一層の連携を深める。なお、(b)については2013年度末に相模原市教育委員会の役職者と懇談し、教員候補者大学推薦制度の改革について検討し、その結果、2014年度より相模原市については中学校の全教科にわたって推薦依頼があった。今後も、このような取り組みを継続していく。

7-4 国際部

達成目標（1）

研究者及び学生の国際貢献活動を活性化させるために、単に交換留学にとどまらない国際交流活動の件数を増やす。

目 標

政府の外郭団体や、民間団体の主催する交流行事に積極的に関与する。これらの活動をとおして、東海大学のプレゼンスを高める。本年度は6件程度の実施を目指す。

現状説明

- ①アラブ首長国連邦（UAE）石油資源大学とソーラーカー共同開発協定締結（2014年2月25日）
- ②UAE国営航空会社エティハド航空と東海大学ソーラーカーチームとのスポンサー契約を締結した（2014年2月25日）。
- ③UAEのアブダビ首長国皇太子ムハンマド殿下の東海大学高輪校舎訪問（2014年2月25日）。
- ④第2回「国際安全保障シンポジウム」（於モスクワ／2013年9月3日）
本学とモスクワ国立大学情報安全問題研究所の共催。
- ⑤第3回日本・ペルー学長会議（於：リマ／2013年10月30日～31日）
- ⑥第4回「日ロ学長会議」（於：モスクワ／2013年10月10日）

点検・評価

<行動計画内容の実現度> A

<成果と認められる事項>

日本国政府の公賓として来日したUAEのアブダビ首長国皇太子ムハンマド殿下が本学高輪校舎を訪問された。日程の都合で湘南校舎訪問は叶わなかったが、近年戦略的に進めてきた中東諸国との交流拡大策が実を結んだと言える。

また、法人国際本部所管となるが、本学とモスクワ国立大学の交流が40周年の節目を迎え、モスクワ国立大学入学式において松前義昭副総長に名誉学術称号である名誉教授が授与された。これまで培われてきた両大学の交流の成果と松前副総長が取り組んできた教育研究活動に対して贈呈されたものである（2013年9月2日）。

その他、学外からの訪問団受入（モスクワ大学—モスクワ青年協会代表団、ガスピロム教育センター代表団）なども行われた。目標の「単に交換留学にとどまらない国際交流活動の件数を増やす（6件）」は十分に達成されたと考える。

<改善すべき事項>

日本国政府の公賓が、過密スケジュールを押して、本学を訪問したことは、UAE政府関係者並びに日本国政府関係者との長期にわたる緻密な交渉の成果であり、一私立大学としてはよくやったと思える。学内並びに学外への発信と言う点では大きな課題を残した。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

引き続き戦略的な国際連携活動を推進していく。

<改善方策>

グローバル化は国際部だけの課題ではない。第Ⅱ期中期目標にグローバルユニシティの構築が掲げられており、国際連携活動推進に当たっては、大学各部署の協力を得ながら、総力を挙げて進める体制を構築したい。

達成目標（2）

海外の教育施設の役割確立。

目 標

在学施設の再編と機能強化を行う。

現状説明

バンコクオフィスとパシフィックセンターの移転事業を推進した。

点検・評価**<行動計画内容の実現度> A****<成果と認められる事項>**

①バンコクオフィス

モンクット王ラカバン工科大学（KMITL）内のオフィスに加え、バンコクの中心部アソーク地区に新たなるオフィスを開設した。オフィスは広さ約 60 平方メートルで、アセアン諸国をターゲットにした本学の広報活動、派遣留学生サポート業務、受入留学生募集活動、海外同窓会支部のサポート業務など行う。新オフィスの開設を期に、従来のバンコクオフィスをアセアンオフィスに改称した（2013年8月23日）。

②東海大学パシフィックセンター・ハワイ東海インターナショナルカレッジ（HTIC）

新キャンパス地鎮祭を行った。新キャンパス計画は、現在の建物が所在する米国ハワイ州オアフ島ホノルル中心部から、同島西部のカポレイ地区にあるハワイ大学ウエストオアフ校（UHWO）敷地内に建物・キャンパスを移転するもので、2015年4月の開校を予定（2013年10月4日）。

①については、バンコクオフィスの機能を強化して、アセアン諸国における本学の知名度の上昇、新規派遣留学プログラムの創生、受入留学生獲得強化が目的である。2013年については、アセアンオフィスと国際課入試係の共同でタイ王国政府奨学生の獲得に一定の成果を収めた。また、第45回学校法人海外研修航海のバンコク寄港に際する現地治安情勢の分析や寄港地研修のアレンジでは大きな力となった。

②については、学園のグローバル教育の拠点としてのTUPC-HTICの機能を強化する施策であり、第Ⅱ期中期目標の「世界で活躍するグローバル人材の育成」推進を企図している。州立大学であるハワイ大学キャンパス内に独自にキャンパスを作り、図書館等の施設を共有化する計画であり、実現の暁には本学教育のグローバル化に大きく貢献できると考えている。

<改善すべき事項>

東海大学ヨーロッパ学術センターとソウルオフィスの機能再編並びに見直しは端緒に終わったばかりである。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

引き続き、戦略的な海外施設の機能再編と拡大を目指していく。

<改善方策>

東海大学ヨーロッパ学術センター、ソウルオフィス、ウィーンオフィスの機能再編並び

に見直しを進める。

7-5 事務部

達成目標

大学の施設・設備の社会への開放や社会との共同利用を推進する。

目 標

〔事務部〕

授業、課外活動以外の期間・時間帯で、活用可能な大学の施設・設備等を、地域をはじめとする社会全般に積極的に公開する。

〔事務課〕（MSS 設定時：湘南総務課）

休日及び休講期間中に、各種資格試験、予備校模試、イベント等に積極的に学内施設を貸出す。

〔清水船舶運航課〕

望星丸の一般公開（春1回秋1回）及び、各市教育委員会航海、調査研究用船航海等により、一般社会の海洋教育活動をサポートする。

現状説明

〔事務部〕

湘南校舎では、地方自治体、高等学校、社会性の高い各種団体等に、授業及び課外活動に支障の無い範囲で教室・運動施設を貸し出した。清水校舎では、望星丸の外部用船が積極的に働きかけられている。

〔事務課〕（MSS 設定時：湘南総務課）

公共性・社会性の高い学外諸機関・団体からの、教室・体育施設等の貸し出し要請に、可能な限り応じている。大学周辺住民からの野球場・テニスコート等の貸借要望には、原則的に応じていない。

〔清水船舶運航課〕

函館港一般公開

留萌港一般公開

海洋学部オープンキャンパス時に、清水港一般公開

文部科学省学術振興航海

秦野市教育委員会航海

三保松原世界遺産記念航海

静岡市内幼稚園停泊中の望星丸に乗船

J A M S T E C 三陸沖調査航海

点検・評価

<行動計画内容の実現度> A

〔事務部〕

湘南校舎の教室・運動施設の貸し出し実績は、延べ74件117日であった。清水船舶運航課では外部用船航海が増えたが、順調かつ安全な航海を実施した。

〔事務課〕（MSS 設定時：湘南総務課）

全体的には、前年並みの貸し出しとなった。

教室は、センター入試、学会、平塚市、秦野市、神奈川県図書館、理容師・美容師試験センター等 11 件に 22 日間貸し出した。体育施設は、平塚市、秦野市、東京都、藤沢翔洋高校、岸根高校、岩槻北高校、鶴巻小学校、大根小学校、みずほ幼稚園、秦野つるまき子ども園、大根幼稚園、湘南柔道協会、市原体操クラブ、神奈川リトルリーグ連盟、秦野ラグビースクール等 63 件に 95 日間貸し出した。

〔清水船舶運航課〕

外部用船航海が当初予定以上に行った。

<成果と認められる事項>

〔事務部〕

特になし（個別課題については各校舎・部署毎の記載による）。

〔事務課〕（MSS 設定時：湘南総務課）

特になし。

〔清水船舶運航課〕

外部用船航海が増えた。

<改善すべき事項>

〔事務部〕

特になし（個別課題については各校舎・部署毎の記載による）。

〔事務課〕（MSS 設定時：湘南総務課）

特になし。

〔清水船舶運航課〕

乗組員の休日消化に影響を与えないようにして、外部用船日数を増加させる。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

〔事務部〕

特になし（個別課題については各校舎・部署毎の記載による）。

〔事務課〕（MSS 設定時：湘南総務課）

特になし

〔清水船舶運航課〕

今年のドックで「マルチビーム音響測深機」を取り付けた。望星丸の海洋観測能力が飛躍的に増加した。今後更なる外部用船海洋調査航海が増加する見込み。

<改善方策>

〔事務部〕

特になし（個別課題については各校舎・部署毎の記載による）。

〔事務課〕（MSS 設定時：湘南総務課）

特になし

〔清水船舶運航課〕

公的機関や民間団体から各種海洋教育や専門海洋調査依頼に対応できるようにする。